

江南市まちづくり会議（全体会議） 議事要旨

会議名	平成24年度 第1回江南市まちづくり会議（全体会議）
日時	平成24年12月27日（木） 午後1時～午後3時30分
場所	江南市役所 2階 大会議室
出席者	市民委員 宮川秀男（第1分科会分科会長）、岩井喜美子（第1分科会副分科会長）、 松尾昌之（第2分科会分科会長）、社本 亘（第2分科会副分科会長）、 加藤幸治（第3分科会分科会長）、柴田広美（第3分科会副分科会長）、 柴田 熙（第4分科会分科会長）、森崎芳子（第4分科会副分科会長）、 早瀬裕子（第5分科会・代理）、脇坂康彦（第5分科会・代理）、 中田 實（学識経験者）、武長脩行（学識経験者）
	市職員 米田隆彦（第1分科会）、宮島まち子（第2分科会）、吉野賢司（第3分科会）、 武馬健之（第4分科会）、大竹 誠（第5分科会）
議題	1. 委員の自己紹介 2. 議長及び副議長の選出 3. 施策評価の結果について 4. 住民説明会について
資料	1. 平成23年度達成状況 2. 平成23年度施策評価の結果 3. 住民説明会について

◆ 会議結果 ◆

1. 委員の自己紹介

- 各委員から自己紹介がありました。

2. 議長及び副議長の選出

- 議長に中田實氏、副議長に柴田熙氏が選出されました。

3. 施策評価の結果について

- 平成23年度達成状況について、事務局より説明がありました。
- 平成23年度施策評価の結果について、各分科会長より報告がありました。
- この会議の目的は、事務局よりまちづくり会議全体の意思決定機関との話があったように、分科会長からの報告を受け、達成状況全体についてよいかどうか確認・承認する場である。併せて、他の分野の観点からも含めて、目標達成のために何をどうすべきか、議論していきたいとの説明が議長よりありました。

【意見交換の内容】

- 平成23年度達成状況（資料1）について、達成率の問題は、目標を低く設定すると達成率は高くなり、目標を高く設定すると達成率は低くなるので、目標が適正かどうか個別的に検討する必要がある。目標が達成できず両マークだったとしても問題を発見することが重要であり、達成できたからよいということだけではないとの意見がありました。
- また、達成状況の判断にあたっては、江南市固有の問題で目標達成できていないのか、愛知県や全国共通の課題なのか、といった観点も必要との意見がありました。

- ・いじめや虐待の問題では、全国統計でいうと愛知県は多い方であるが、多いということは問題発見ができているといった見方もできるとの意見がありました。
- ・老人クラブの会員数が減少している要因については、「60代はまだ元気だから加入したくない」、「まだ働きたい」という、全国共通の傾向があるとの意見がありました。
- ・高齢者がどんどん増えているにもかかわらず、老人クラブの会員数は減っており、逆相関となっていることについては、もっと努力していかないといけないとの意見がありました。
- ・分野別会議では、行政への要望だけでなく、自分たちでできることを考えないといけないということで議論してきた。老人クラブは、これまで勧誘をせず、活動内容もカラオケとグラウンドゴルフだけということではなかなか参加してもらえないため、まずは全戸へ申込書を配布することから始めた。活動のやり方についても、ふれあいサロンのように気楽に集まれる会にしていけないといけないとの意見がありました。
- ・老人クラブに魅力的な行事が少なく、また、新しく老人クラブに入るとすぐ役員をやってほしいと頼まれることもあり、要は人材不足ではないか。世話をしてもらいたいという意識ばかりで、世話をするという意識が少ないという意見がありました。
- ・仮に市からたくさんの補助金を老人クラブへ支出したとしても、高齢者の楽しみといった心の満足はできず、お金だけでは解決できない問題でもあるとの意見がありました。
- ・高齢者の生きがいにつながり、地域にとっても課題解決になるような活動をしていくことが重要との意見がありました。
- ・老人クラブだけでなく、地域のサロンを開かせていただいた。老人クラブに入っている人も入っていない人も、地域に住んでいる人はどんな人でも来てくださいますというかたちで、みんなが元気に集まれる場があればそれでよいのではないかと意見がありました。
- ・老人クラブそのものの性格が変わらないといけない。これまでは、現役を退いて余生をどう健康で幸せに生きるか、といったサービスの受け手の側に軸足を置いた組織であったが、今の60代の方はサービスの受け手ではなく、担い手になりたいという意識が強いため、シルバー人材センターに登録したり、ものづくりをしたりという人が多い。老人クラブの活動の中にもそうした仕組みを取り込んでいき、気概を持った人が組織に入っていけるとよいとの意見がありました。
- ・民生委員が独居老人を訪問したり、新聞受けを見ながら、変わった状況があればすぐにしかるべきところへ連絡をとるとともに、牛乳配達や新聞配達など民間と提携しようという動きもある。また、町内会の班長が回覧板を回すなど、市民レベルで見守るという何気なく行っている中でお互いがお互いに助け合える基盤もあるのではないかと意見がありました。
- ・年金が65歳からしか支給されないので働きに出ていかざるを得ず、60歳になっても老人クラブには入れないとの意見がありました。
- ・学童保育の受入れについて、働いているお母さんは子供が帰ってくる時間に合わせて帰ってきても、夏休みや冬休みがあったり、子どもが二人いると下の子は預かってもらえるが上の子は預かってもらえないなどにより、結局仕事をやめてしまう人もいます。現在は小学3年生までであるが、小学4年生まで学童保育をお願いしたいとの意見がありました。
- ・放課後子ども教室は何校で実施しているかとの質問があり、藤里小、宮田小、古知野南小、布袋小の4校で実施しているとの説明がありました。
- ・全小学校で放課後子ども教室を実施することは無理なのかとの質問があり、学校では一つの学級を二つに

分けて少人数指導を行っていたり、今後 35 人学級が拡大されることも予想されることから、余裕教室がなく難しいとの説明がありました。

- ・学校には図書室や家庭科室等いろいろな教室があるが、使用目的を切り替えるなどして放課後子ども教室の場として活用することはできないかとの意見がありました。
- ・退職教員を地域の人材として活用してはどうかとの意見がありました。
- ・男女共同参画や高齢社会の真っ只中にあり、子育て中のお母さん方にもますます社会に進出していただかないといけない。学校の受け皿を大きくし、学童保育も充実していくという前提に立った上で、子ども 110 番のような、地域の中で子育てできる仕組みが必要ではないか、との意見がありました。
- ・どう計画的に改善していくか、どんな目標を改善の目標としていくかというように計画的に少しずつやっていかないと 10 年たっても変わっていかないととの意見がありました。

- ・市の広報について、どんな役割を果たし、どうしたらもっと有効になるか、所管は第 5 分野ではあるが、それぞれの分野別会議において今後検討を続けていただきたいとのお願いが議長よりありました。

- ・公共交通のいこまい CAR については、他市町との連携ができないか。また、大口町の総合型スポーツクラブなどの成功例も参考にして、高齢者の生涯教育・スポーツ促進を図り、健康増進やボランティアへの参加など複数の分野を横断的に解決していく視点も必要であるとの意見がありました。

- ・期日前投票の手続きについて、今回の衆議院議員選挙から入場券のハガキに署名する方法に変更したとの説明があったが、可能なのかとの質問がありました。これに対し、今までは期日前投票の際、その場で宣誓書に住所、氏名等の記入をしていただく方法であったが、入場券の中に記入できる欄を設けて、事務がスムーズに流れるように工夫したとの説明がありました。

- ・ボランティアや協働もあまり増えてきていない。厳しい経済状況の中で市民の力が仕事に向かっているのか、それとも、市民として活動の力があるにもかかわらずきちんと組織できていないのか。市民の基礎力や関心をアンケート（市民満足度調査）で聞き出してもらいたいという意見がありました。

- ・アンケート（市民満足度調査）のとり方については、すべて間に合うかという問題もあるが、具体的な指摘があったところについては、今後見直しを検討していただきたいとの意見がありました。

- ・来年度は、後期計画の見直しを行うため、アンケート（市民満足度調査）の実施、指標の見直しなども行い、皆様のご意見を反映できるように進めていきたいとの説明が事務局よりありました。

4. 住民説明会について

- ・来年度に開催される住民説明会の開催方法について、事務局より説明がありました。

【意見交換の内容】

- ・今までと同程度の地域の皆さんが参加できれば良いが、校区単位でなくなり、会場が遠くなると参加人数は少なくなるのではないかとの意見がありました。これに対して、駐車場がある会場であれば車でも来場してもらえることや、寒い時期の開催のため空調設備のある環境で開催できるように配慮したとの説明がありました。
- ・確かに運営も大変だろうが、大勢の方に分かっていただこうと思えば、従来どおり 10 回開催した方が住民説明会の趣旨が徹底できるとの意見がありました。
- ・今までの住民説明会では、参加者中、行政の職員が 1 割か 2 割を占めており、その方を除けば、地域特有の問題について、市長に質問したいという人が多いのではないかとの意見がありました。これに対して、地域特有の課題がある時には地区から申し出をいただき、その地区のテーマに絞って車座で話をする「まちづくり懇談会」という制度を今年度から始めており、今のところ実績はないが住民説明会を補完する制度としての受け皿はあるとの説明がありました。
- ・地域で出た意見を戦略計画に繋げるような工夫をしていけばよいとの意見がありました。
- ・一度新たな方法でやってみて、また次の策を考えるのも一つではないかとの意見がありました。
- ・地域別の課題については別の制度もあり、一つの試みとして原案のとおり今後進めていくとの結論となりました。

5. その他

- ・第 4 分科会（教育分野）の分野別会議の委員構成について、委員 10 名のうち市職員が 2 名しかいないため、教育委員会だけでなく保健所や社会福祉協議会などの職員で行政側の委員の補強はできないかとの意見がありました。